

国際物理オリンピック2023記念協会における 新たな展開（記念協会が支援する事業）について

2024年12月

一般社団法人国際物理オリンピック2023（以下「IPhO2023」）協会（代表理事・会長 小林 誠）は、2023年7月に第53回国際物理オリンピック日本大会を開催し、世界から約80の国と地域からの参加を得て成功裡に実施することができました。

IPhO2023大会の実施完了を踏まえて、本法人は、2024年7月から国際物理オリンピック2023記念協会（International Physics Olympiad 2023 Commemorative Association）（以下「IPhO2023記念協会」）と名称変更して、以下の目的に沿った取り組みを開始しました。

- 1) 物理学及び関連分野における次世代の人材育成
- 2) 物理学及び関連分野における教育方法の改善、
- 3) 物理学及び関連分野におけるダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（Diversity Equity and Inclusion : DE&I）の実現、
- 4) その他目的を達成するための事業

このたび、上記に関して第一次の公募を行い、審査の結果、次頁に記した3団体・3事業について支援することといたしました。
各支援対象事業の概要については次頁以降をご覧ください。

この取り組みは、IPhO2023大会開催の残余金を原資として、当面、2年程度の活動を行いつつ、その効果等を検証した上で、それ以降の活動について検討します。引き続きご支援を賜りたくお願い申し上げます。

一般社団法人 国際物理オリンピック2023記念協会
代表理事・会長 家 泰弘



<https://ipho2023-commemorative-association.jp/2024/07/01/new-development/>

国際物理オリンピック2023 (IPhO2023) 記念協会が支援する事業 (第1次募集分)

2024年12月

応募に基づき3団体3事業
に支援 (第一次応募分)

一般社団法人 国際物理オリンピック2023記念協会
(代表理事 会長 家 泰弘)

【支援】

事業委員会

委員長 家 泰弘

次世代人材育成委員会

委員長 遠山 貴巳

教育方法の改善委員会

委員長 早野 龍五

ダイバーシティ委員会

委員長 横山 広美

物理チャレンジへ参加する
生徒を拡げる取り組みに支援

公益社団法人
物理オリンピック
国内委員会(JPhO)

若手物理教師のための
実験器具体験講習会への支援

日本物理教育学会

女子中高生夏の学校2025～
科学・技術・人との出会いに支援

NPO 女子中高生
理工系キャリアパス
プロジェクト

国際物理オリンピック2023 (IPhO2023) 記念協会 が支援する団体とその取り組みの紹介①

団体名：公益社団法人物理オリンピック日本委員会(対象事業の種類：次世代の人材育成)

ホームページ：<https://www.jpho.jp>

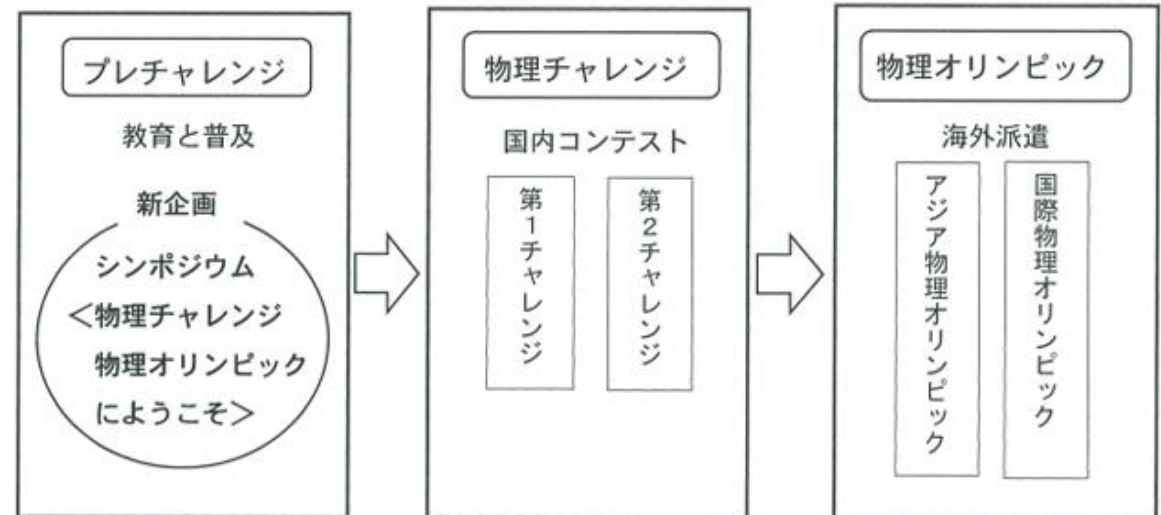
支援事業：JPhOシンポジウム「物理チャレンジ・物理オリンピックによようこそ」

物理オリンピック日本委員会 (JPhO) は、国内コンテストを実施する「物理チャレンジ」、選抜選手を海外に派遣する「物理オリンピック」、物理教育の裾野を広げる「プレチャレンジ」の3つの主要事業に取り組み、次世代の人材育成を目指して活動しています。JPhOは、当事業の広報と「物理チャレンジ」への参加者数増を目的として、プレチャレンジ研修会回数を増やすことと、新規にシンポジウム「物理チャレンジ・物理オリンピックによようこそ」を開催することです。

このシンポジウムは、JPhOの取り組みの紹介、実験実習、物理系出身起業家の講演からなり、中高生と高校教員から参加者を募集します。

午前中はハイブリットで理論と講演、午後は現地開催で実験実習を取り入れたプログラムからなっています。

国際物理オリンピック2023記念協会は、次世代人材育成の観点から、2025年3月に開催される「物理チャレンジ・物理オリンピックによようこそ」を支援します。



団体名：日本物理教育学会(対象事業の種類：教育方法の改善)

ホームページ：<https://pesj.jp/>

支援事業：若手物理教師のための実験器具体験講習会

日本物理教育学会では、同学会に所属する全国の若手・中堅の教員を対象に実験器具体験会を企画しこれまでに3回開催しました。現在、高等学校での授業では、生徒が積極的に物理実験を行える機会は少なく、将来夢を持って物理に挑もうとする資質・意欲のある生徒の芽が摘まれてしまうという憂うべき現状にあります。

第4回若手物理教師のための実験器具体験講習会では、よくある実験道具から新しく便利なセンサー機器などの道具まで、様々な物理教材について、作り方・利用法について体験するプログラムはこれまでと同様で行いますが、今回は授業展開などについて参加者同士が議論したり、情報交換したりできるような講習会を予定しています。さらに、物理教材等を参加された教員の地域に持ち帰り、学校の授業において実験が広く取り入れられることでその地域で物理実験が普及し根付くようなことが期待されます。また、IPhO2023日本大会の実験試験で使用されたキットを用いた実験の体験も計画しています。

国際物理オリンピック2023記念協会は、教育方法の改善の観点から、2025年2月に開催される「若手物理教師のための実験器具体験講習会」を支援します。



団体名：NPO法人 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト（対象事業の類型：ダイバーシティ等の実現）

ホームページ：<https://gstem-cpp.or.jp/>

支援事業：女子中高生夏の学校2025～科学・技術・人との出会い～

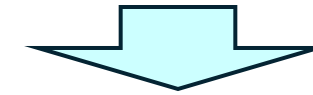
NPO法人 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクトは、理工系への進学を躊躇している女子中高生に、研究者や技術者が幅広い分野の科学や技術の魅力伝え、ロールモデルを提示し、女子中高生が、具体的に自らの理工系キャリアパスを描くことができるようにすることを目指しています。

これらを実現するために、毎年8月上旬に合宿型の研修「女子中高生夏の学校」を開催しており、全国から約120名の中高生が参加し、約40名の女子大学生・院生TAと約20名の実行委員が運営を担います。（2025年度は会場の都合で参加者90名を予定）

この取り組みには、日本物理学会、応用物理学会はじめ約40の学協会と約10の企業から、実験実習やポスター展示・キャリア相談で述べ200人以上の科学者技術者がプログラムを提供しています。

国際物理オリンピック2023記念協会は、ダイバーシティ等の実現の観点から、2025年8月に開催される「女子中高生夏の学校2025～科学・技術・人との出会い～」を支援します。

女子中高生夏の学校
2025 参加者
全国から中高生90名



運営
実行委員 20名
運営補助
女子大学生TA 30名
プログラム実施
学協会、団体、企業
200名
助成団体
企業、財団、学協会

1日目
キャリア講演
学生企画 アイスブレイク
2日目
実験実習、ポスター展示、キャリア相談
学生企画 キャリアプランの作成
3日目
学生企画 キャリアプランの発表